筑波學生新聞

プロ野球
オリックスが1位指名
杉本友（基工4）
即戦力との期待が

硬式野球部の杉本友投手（基礎工四年）が十一月二十一日に行われたプロ野球ドラフト会議でオリックスブルーウェーブに一位指名された。国立大学からの一位指名は初めてのことだ。

▲逆指名会見での杉本投手

杉本投手のオリックス一位指名については、逆指名以前からスポーツ新聞各紙で報道されていたため、予想通りの結果となった。ドラフト会議中は核融合の授業を受講しており、教室の周りを報道陣に囲まれているという異様な光景だった。

入団を決めた理由として同投手は「自分を一番理解してくれ、一番評価してくれたから」と言葉を選ぶように答えた。又、「ピンチになっても『あいつならなんとかしてくれる』と思われる投手になりたい」と将来の希望を述べた。現在は半導体の薄膜制御についての卒業論文を手掛けている。その影響でキャンプへの参加は二月になる見込み。

杉本投手の持ち味はMAX一四八キロのストレートに加え、三振をとれるフォークとスライダー。首都大学リーグの奪三振王というニックネームがあるほどだ。また、ダイナミックな投球フォームで三振を奪う姿から、野茂二世とも呼ばれる。「野茂に追いつきたい」と憧れの人に対する思いを語った。

しかし、一番の特徴はマウンドでの強気の姿勢にある。野球部の功力（くぬぎ）監督は「ピンチになっても決して打者から逃げない」と強心臓ぶりを評価した。春のオープン戦で青山学院大学と対戦した時には、全てストレート勝負をしたというエピソードを残している。

今でこそプロ野球入りをするほどの実力を持つ杉本投手も高校時代は無名の投手だった。功力監督は「入部したときは風が吹くと飛んでいきそうなくらい痩せていたが、腕の振りだけはすばらしかった」と杉本投手の第一印象について振り返った。そこで一年生のときから下半身の強化に重点を置くトレーニングに徒手した。首都大学リーグを代表する投手になれたのもトレーニングの成果だといえる。

今後、オリックスでの活躍について一部では即戦力という声が聞こえている。これに対し功力監督は「まだプロで活躍するのは無理だが、三年後には必ず先発ローテーションに入ってくるだろう」と同投手の将来性についてコメントした。しかし九十七年度のオールスター後には、パ・リーグの一流打者から三振を奪う姿を期待したい。

江崎学長に公開質問状
論文著者順序すりかえ裁判

論文著者順序すりかえ裁判の原告・大久保由紀子さんが、江崎玲於奈筑波大学学長に対して公開質問状を提出している。この裁判では七月三十日、東京地裁で第一審判決が言い渡され、被告講師に賠償命令が下されている。筑波大学自体はこの事件の直接の被告とはなっておらず、これまで裁判の行方を静観してきた。しかし、大久保さんは、質問状の中で、教官採用審査中に審査状況の漏洩があったなど、人事に不明朗な点があり、それが今回の事件を誘発したのではないかと主張している。今後、筑波大学がどのような対応をするのかが注目される。（下田）

（公開質問状は十月二十五日、江崎学長宛に提出された。この中で大久保さんは、江崎学長に対して、以下の三点についての回答を求めている。

一、筑波大学の不明朗な教官採用人事に巻き込まれ、大久保さんの論文が著者順序を入れ替えられたまま出版されたこと。

二、教官採用審査を行うはずの人事専門委員会や大学上層部の教官が著者順序の入れ替えを誘発、あるいは教唆したこと。

三、教官が事件のもみ消しを図っていたこと。

大久保さんは質問状と併せて、人事専門委員の教官と原告側との会話を録音したテープや、被告講師や教授間で交わされた電子メールのコピーも提出した。

この中には、人事専門委員会の審査状況が、退官して外部の人間であるはずの教授に漏洩していたことを示す電子メール、事件が新聞の地方版に掲載されたことに対し、当時の副学長が腹を立てている状況を記した電子メールもある。

これまで、筑波大学は事件に関して静観を続けてきた。江崎学長も第一審で賠償命令を受けた講師に対して「講師就任以前の問題」として処分を下さない方針を示し、今回の公開質問状に関しても、提出後一ケ月が経過した現在まで、大久保さんに対して何の回答も示していない。

しかし、教官採用審査の漏洩に対する筑波大学の人事専門委員会等への監督責任は払拭できず、事件のもみ消し工作が大学ぐるみで行われたのではないかとの疑いの声も出ている。一刻も早い真相の調査、回答が望まれる。

現金賄収で有罪判決を受けた前つくば市長・木村操被告の辞職に伴う出直し市議選と同時に、十一月十七日に行われた。

市長選投票率は市全体、学生街ともに前回を上回った。市議選投票率も同程度だった。

投票率一〇％代が続いてきた学生街での高投票率は、前市長逮捕の反動か。多くの学生が狩り出された選挙アルバイトとの連動か。それとも…

多数の候補者が出馬し白熱した選挙戦の中、筑波大生の動向を追った。（丹羽）

'96出直し市長選挙
～投票行動から～
どう動いた筑大生

「候補者が多すぎて違いが分からない」「候補者についての情報が少ない」「候補者の名前が載っていないビラ（公選法で認められた法定ビラ。名前、顔の掲載は禁止されている）があって分かりにくい」「裏向きは何でも言える」「ありきたりの選挙運動」と、大半の学生にとっては旧態依然の選挙だったようだ。

市全体の投票率は六五・七三％（前回五九・三三％）。学生街である天久保地区は二七・五二％（同二二・五四％）、春日地区三二・五一％（同二七・八七％）と、前回を上回る結果となった。

選挙当日、春日公民館、吾妻中投票所出口で、投票に来た学生から無作為に選んだ二十五人に選挙に対しての意見を聞いた。

農村地区には大きな影響を与えたといわれる前市長逮捕事件だが、学生の投票にはどう影響したか。事件が投票へ行く直接の契機となったという学生は一人だけ。だが、十四人が「古い体質が分かった」「汚職をしなさそうな人を」など、候補者の判断、市政への関心に影響したと答えた。

候補者の多さ（市長選六人・市議選五十三人）のためか目立った選挙アルバイト。ただ、アルバイト学生の投票は意外にも二十五人中たったの一人。アルバイトをしていた友人に頼まれて、という人は三人。

また、候補者が知り合いだから、という人は九人いた。

逆に多かった投票理由は、「投票は権利、義務だから」で二十五人中十五人。初めての選挙だから、出かけついでにという声もあった。

選挙全体を通しての印象については「買収事件の直後で市民の意識が高く、好時期」「どの候補者も（市政を）変えようとの意識があった」との声がある一方、

投票率は高けれど…

投票率は比較的高かったが、だからといって学生の関心が高いとはいい切れないようだ。投票に来た二十五人すら、市政への関心の有無は半々に分かれた。また、天久保、春日両地区で投票した全てが学生という訳ではない。出口で見た限り、天久保は七～八割が学生だが、春日は四割程度だった。

前市長贈収の一件もあり、選挙管理委員会の監視が厳しい中での選挙だったが、各候補がこぞって掲げたクリーン選挙は実行できたのか。

ある候補陣営でアルバイトをした学生は「供応があった。支持者も当然のように受けていた」「決められたより多く給料をもらった」「選挙事務所で給料をもらったことを口外しないよう言われた」と語る。

中衛ビラも相変わらず出回り、自陣営の中衛ビラの回収をさせられたというアルバイト学生もいた。

今回の選挙で感じたのは、市長が賀収しようが学生街の投票率が上がろうが、大半の学生にとって市政、市選挙は「よく分からないがどうでもいい」または「（バイトによる）臨時収入」でしかないということだ。

投票理由で目立った「アルバイトしている知り合いに頼まれた、候補者と知り合いだから」は、結局地縁・血縁の旧態選挙と本質的には変わらない。

また、住民票すら移していない学生も（確認はできないが）相当数いると思われる。それは（多くの自治体では他業務にかけて施行されてはいないが）住民基本台帳法に触れるという点も記したい。

（バイトという手段の）金づる、知人だから・友人に頼まれた、（住民基本台帳法か、公選法かの違いはあっても）法律違反をしているという事実。乱暴を括り方かもしれないが、やっていることはムラ選挙と変わらない。この点多くの学生は自覚していないのではないか。ツクバの選挙から目を背ける前に、学生は、まず我が身を顧みなければなるまい。

最後に、あくまで傾向だが、話を聞いた二十五人の中では理学生の方が市政への関心が高かった。進学する関係上、つくばに残る学生が多いせいか、「科学の街」への誇りがあるのか。長くつくばに留まる、あるいは、ここが誇りがもてる街にならなければ、この地で学生が地域に関心を持つのは難しいのだろうか。

自主休講

一田舎街から一躍近代的国際学園都市に。その威光も影をひそめ、気が付くと老人都市に――。少死少産が原因で全国的に問題となっている高齢化問題。つくば中心部に住んでいるとイマイチピンと来ない。だが、つくばにも着実に、そして突然に高齢化問題が現れるという。それも、少死少産ではなく、過疎化という形で▼国策で原野に学園都市ができてはや二十年。そのころ、建物ができ、将来性でもてはやされたつくばに大量に流入・定着した世代も、老齢期に差しかかろうとしている。世代が固まっている分、今は目に見えないが、一気に高齢化問題が押し寄せる。一方で、その下の我々と同じ世代は地元に産業がないため仕事を求めつくばを離れる。やがて、つくばは少数の仮住まいの学生と研究者、老人のまちとなる▼建築物は整い、街としての見栄えは悪くない。だが、老人の住環境としては、つくばはあまりに悪い。市内の公共交通機関網が発達しておらず、相変わらずの車社会。夜暗い町並み。凹凸、起伏が激しい歩道…科学の街の看板作りにかまけて住環境の整備を怠ってきたツケが、まさに現れようとしている▼過疎化は、そもそも田舎や山間の村落特有の問題だった。情報化とともに世界が見えてくると、仕事も刺激もない村から若者が脱出し、一方で、そこに生活基盤が完成してしまった老人が残され、世代断絶し、廃れていく▼仕事も刺激もないといえば、まさにつくばに当てはまる。近代的なイメージに隠れたこの街の前近代性がこのような形で露呈されようとしている。来るべき老人都市化に備え、まず、快適な都市作りを。そして、移住する人が留まる街へ。これからのつくばの一方向性だろう。そのために何が必要か―何が欠けているかを考えれば、それはおのずと見えてくるだろう。（小嶋）

筑波大学に見る
大学院の行方
修士課程 医科学研究科
専門家を育てる 責務を果たす

筑波大学大学院修士課程医科学研究科では、学生と教官が一丸となって、医科学的な研究でこれまでにいくつもの実績をあげてきた。最近でも、大島宣雄・基礎医学系教授らのグループが、ガン細胞組織の中の血管の血流観察に成功し、ガン治療の研究を行う上で重要な手がかりになるとして、今年の九月二十六日、各新聞社の夕刊がこのことを取り上げている。

現在、医科学研究科の科長を務めているのはその大島氏であるが、氏にその医科学研究科の「これまで」と「これから」を伺い、学群生にとっては想像のしにくい大学院の姿を一つの側面からとらえてみることにした。

（これまで）

日本初の医科系修士課程

筑波大学医科学研究科は、一九七九年に大阪大学医科学研究科と共に開設された。それまで我が国では、医科系の大学院は医学部生中心の博士課程でしか開設されていなかった。つまり、他の学部からも広く学生を募集する筑波大の医科学研究科は、国内では初めての医科系修士課程ということになる。

専攻は現在「医科学」のみ。その中身は、筑波大の場合今のところ三つの分野に分かれている。一つ目にスポーツ医科学分野。二つ目に医科学分野。そして最後が高齢者医療・福祉関連分野である。

現場のニーズに応える

修士課程である医科学研究科の開設が、文部省から認可された時代背景に、医療を支える基礎医学としての医科学について豊かな知識を有し、なおかつその中の一つの分野で高度の専門知識を有する人材の育成が急務であるという、当時の社会的風潮があった。そして、高齢化社会へ向けて福祉や看護、リハビリテーションの重要性が増してきた今日では、その風潮はとどまることを知らない。医科学研究科への入学志願者は、ここ数年で社会人枠では四倍に、学部生枠では五倍に増加した。

「私が研究科長になってからは、広報活動に力を入れている。毎年、研究グループを紹介する説明会を開いたり、ホームページで情報公開をすることにより、医科学研究科の魅力を多くの人に伝えている」（以下、「」内は筑波大島科長の談）。

時代のニーズや積極的なPR活動が、医科学研究科の志願者増加につながっているようである。

（これから）

設備や教官の問題

開設当時一学年二十名だった定員も、一九八九年からは社会人枠十名の導入により三十名になった。入学志願者の増加に歩調を合わせて、ここ近年筑波大では、定員を上回る数の学生を入学させている。

「筑波大学の設備は、医科学を研究する上で、他の大学院と比べても充実しており、満足できるものだ。ただ、一学年が二十人という設定をもとに医科学修士棟が建設されたので、増える学生に対応しきれなくなりつつある。」

また、昨年筑波大学の学生担当教官室の管轄で行われた大学院学生生活実態調査（外部へは非公表）では、他の研究科と同様、結果があまり芳しくなかったという。

「私達教官としても、他にあまり例のない医科系の修士課程だから、たかが二年といって手を抜くみるのはよくないことだ。教官側でも、熱心にやっている学生達のために、意識の改革を行うべきだと感じている。」

新専攻の開設

医科学研究科では現在文部省のほうに、第二の専攻として、定員三十人の医療・保健学専攻の開設を申請中であるそうだ。

「日本はこの分野のプロフェッショナルがまだまだ少ない。近年の社会的要請に応えるためにも、この専攻は必要。この案は医科学修士棟の側にある医短（医療技術短期大学部）の四年制化計画と並行して進んでいる。近いうちにどちらも開設が認可されるであろう。」

増える志願者と新専攻の開設に対応するべく、組織の再構築と施設の再検討が迫られているのが、現状である。

（総括）

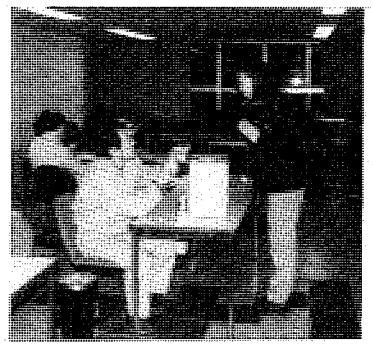
あるべき姿

大島科長は、医療の理想とは「co-medical」であると言う。医療は、もはや医師達だけの専売特許ではない。彼らを陰で支える看護婦をはじめとして、技師、薬剤師や研究者達が「協力」しあえる現場があってこそ、潤滑な医療活動ができるものなのだ。

開かれた大学を標榜する筑波大学の建学精神のもと、医療人を養成するため各方面で研究を続けている医科学研究科。社会に貢献する優秀な人材を育てるという責務を果たしているこのような大学院が、我が国で最もハイレベルな教育機関として、本来あるべき姿の一つなのであろう。（柿沼）

◀医科学修士棟

Photo Report
毎年恒例！
～宿舎抽選～



毎年恒例の宿舎抽選が平砂共用棟の娯楽室において行われた。十一月十三日から十五日には一人部屋の抽選が、二十一日、二十二日には、二人部屋の抽選があった。今回の申し込み者数は、男子が八五四名、女子が六〇二名。倍率は男子が約一・七倍、女子は約二・二倍であった。

ある意味では運命の選択ともいえる宿舎抽選を毎年見てきた職員の方々は「どうしても受からなければ、と思っている人が落ち、どちらでもよい、という人が受かる事がある。抽選だから結果についてはどうしようもないが、別に二年次もあえて宿舎に留まる必要のない学生さんは、申し込みを辞退してほしい。その方が宿舎に残りたい学生の合格の可能性が高まるのだから」と語る。

その安さと手軽さ故、人気も以外に高い学生宿舎。今一度、その評価を見直してはいかがだろうか。（小嶋）

筑波學生新聞

日本名門酒会員
モンドセレクション
国際品評会金賞
入娘
ヒトリムスメ
（株）山中酒造店
代表取締役　山中直次郎
結城郡石下町新石下187
TEL 0297-42-2004㈹
FAX 0297-42-6977

編集・発行
筑波大学学生新聞会
代表　下田　征輝
〒305 茨城県筑波学園郵便局私書箱29号
TEL 0298-52-4460
振替 00360-9-31450
1部100円

12月号

筑波学園文庫
古書買入
学術書・専門書
筑波大教科書・参考書
SUKIYA・デニーズ・珍来
東大通り
学園平塚線
筑波学園文庫
至大学会館
つくば市天久保3－21－3
TEL0298（55）1404

車検整備・鈑金塗装
格安コース＝Aコース
おまかせコース＝Bコース
※車検基本料　15,000円
激安中古車あります
電話して下さい
有限会社 山一オート
つくば市大字要245
TEL 0298-64-1311
術山一オート　ループ　西大通り　ヤマト便　丸善石油　三菱石油　ローソン　ホテル　ホテルトレモント　東大通り　松乃屋　信号まで50m

一般・小児・矯正
医療法人
恵歯会
桜ケ丘歯科
診療時間（9:00～18:00）
日，月，祭日，休診
吾妻3－17－6
東大通りぞい
TEL
0298-52-1518

運転免許
★低料金
★早い卒業
★安心
歓迎　筑波大生
公認 明野自動車学校
0296(52)2811
筑波大学生申込所
筑波学生教職員生協
0298(55)9331

自動車保険代理店
有限会社
ホソダ
車検整備・鈑金塗装
新車・中古車販売ローン取扱い
つくば市天久保2－23－2
TEL
(0298)51-2166㈹
FAX
(0298)52-7657
自宅TEL
(0298)51-2696
筑波山　筑波大　東大通り　ニッサン　ホソダ　味の民芸　ココス　至1 霞川沖

Summer's
HAIR PROJECT ②,⑤
カット料金　¥2,500より
年中無休
平塚線　トレモントホテル　ラウンジ　理容室サマーズ⑤　コナン　デニーズ　珍来　大学グランド　ブックバーン　天久保公園　西大通り　筑波大学　味の民芸　ココス　理容室サマーズ②　東大通り　松見公園　スパー　北大通り
電話予約も承っております
サマーズ② 0298(55)2400
サマーズ⑤ 0298(51)7610
平日　AM10:00～PM8:00
土・日・祭　AM9:00～PM7:00
スタッフ募集中

つくば市

ごみ収集方法変更から一ヶ月

ごみ分別にも大人の分別を

つくば市のごみ分別方法と収集日程が変更になって一ケ月が経った。リサイクルを進めるために分別項目が増えたわけだが、新しい分別・収集方法の問題点と、慢性的なごみ問題を抱える筑波大周辺地域での、分別方法変更後のごみ状況を検証した。（額賀・山本）

【分別・収集方法はこう変わった】

新しくできた分別項目は、「プラスチックごみ」と「リサイクル資源」の中のペットボトルである。二つとも従来は「燃やせないごみ」として収集していたものだが、ペットボトルとプラスチックごみ（食品トレイなど）のリサイクルを開始するにあたって分別項目に加えられた。ただし、プラスチックごみのリサイクルは平成十二年からの開始予定で、現在はまだ焼却処分している。他に、粗大ごみも、不燃と可燃に分別された。

分別項目が増えたことにより、収集日程も変更になった。燃やせないごみは、プラスチックごみと分かれたことで週一回収集から月二回収集になり、プラスチックごみが週一回収集となった。さらに燃やせるごみは、従来週三回収集だったのが、週二回に減った（つくば市一部地域では、従来から週二回収集である。リサイクル資源は、かん・びんと古紙を月二回、同じ日に収集していたのが、かん・びんだけで月一～二回、ペットボトルと古紙が同じ日に月一回収集と変わった。

【新収集日程の問題点】

新しくリサイクルが始まったペットボトル。最近は五〇〇mlのサイズも登場し、ところが、ペットボトルの収集は月に一回。従来は燃やせないごみとして週に一回出せたのだから、リサイクルのためとは言え、不便であることは間違いない。

かん・びんについても同様で、従来は必ず月二回は出せたのだが、新しい収集日程では一回しか出せない月もある。

このような収集日程を前に、たいていの学生のとる行動は二つに一つ、そしらぬ顔で収集日以外に集積所に出してしまうか　燃やせるごみやプラスチックごみに混ぜて出してしまうか、であろう。学生のマナーの問題も確かにあるが、リサイクルをスムーズに進めるために、行政側に一考を要する問題でもある。

もう一つの問題は、燃やせるごみが週三回収集から週二回へと減ったことである。これについては、「行政側の都合だけで行政水準を下げるのは、とるべきやり方ではない」と、市議会で全市での燃やせるごみ週三回収集を求める決議が九月に出されており、今後の推移が注目される。

▶無分別に散乱したゴミ（春四集積所）

【春四ごみリポート】

十一月一日からの分別方法変更後、筑波大周辺地区では、新しい分別方法はきちんと行われているのだろうか。ごみ問題では悪名高い春日四丁目のごみ集積所を見て回った。

ほとんどの集積所に、袋に入っていない空きかん、空きびん、ペットボトルなどが多かれ少なかれ山積みされている（収集業者に尋ねたところ、これらの袋に入っていないごみは原則として収集しないそうだ）。袋に入っているごみも、ペットボトルとかん・びんが同じ袋に入っていたり、燃やせるごみとプラスチックごみが同じ袋に入っていたりと、分別がなされていないものが多い。調査したのが十一月下旬で新しい分別方法がまだ浸透していないとも言えるが、集積所の状態は変更以前と全く変わっていない。

この春日四丁目を含む春日地区のごみ収集を担当している業者、筑南清掃工業の収集作業員は「収集日も時間も分別も守られていない。袋の口を結んでいないごみも多くて、困っている」と語る。また、路上駐車のために集積所に収集車を近付けられないこともあり、迷惑を被っているそうだ。

【ごみ問題の今後】

前述した問題点だが、ペットボトルの普及状況を考えると、月一回の収集は少ないように思える。リサイクルを進めるためには分別方法が守られなければならない。収集日が増えれば、分別を守りやすいのではないか。燃やせるごみの週三回収集も含め、実情にあった制度を整備することを市には望みたい。

もちろん、行政まかせではなく、市民の側でもごみのリサイクルを進めるためには努力すべきだし、何より学生自身に基本的なごみについてのマナーを身に付けることが求められる。つくば市のごみ対策課でも「一年間くらい経たないと（ごみが）どんな状態になるか分からない」と言っているが、ごみ問題、リサイクル問題の解決はまだまだこれからと言えそうだ。

【学生宿舎では】

分別方法変更後も、学生宿舎では当面、従来の方法で分別を行っている。

ところで宿舎では、各棟の入り口にごみ箱を設置しているが、それぞれのごみ箱に袋を取り付けてあるので、かんやびん、ペットボトルをそのまま捨てても収集してくれる。また、収集日に関係なく、いつでもごみを出せるようになっている。その宿舎のごみ箱の感覚で集積所を利用する学生がいるために、先に述べたような状況になってしまっているのだろう。

新しい分別方法への移行とは別に、各棟入り口のごみ箱を撤去し、宿舎敷地内の何ケ所かに一般と同じようなごみ集積所を設置する計画が厚生課により検討されているとのことだ。予算が下り次第実施する予定だと厚生課では話している。ただ、収集日などもこの際規則化して、一般の集積所と変わらないようにしなければ意味がないだろう。ほとんどの学生がまず宿舎に入るのだから、宿舎でごみマナーを身に付けさせないと、外でのごみ問題も解決には向かわない。

検証 任期制

大学の教官評価は成功するか——

大学教員の任期制についての答申が平成八年十月二十九日に大学審議会から文部省に提出された。大学教員の任期制導入について様々な問題を考察する。

任期制とは

現在の日本の大学教育人事は学部・学科にもよるが、一般に自校出身者の比率が高く（外部出身の教官は、採用が全体の五%、転入に関しては〇・〇六%しか行われていない）、他校・一般企業等との人材交流が少ないことが指摘されている。また、一旦教員に採用された後は、業績評価がされないまま年功序列的な人事がなされる事も少なくないようだ。

任期制とはこういった現状の解決策の一つとして提唱されているものである。大学の教員に採用契約期間を設けることで、教員の大学・民間の流動性を高め、教育・研究活動を活性化することを目的としている。また採用方法を実力主義的な方向へ改善していく意図もある。

その問題点

しかし、この任期制の導入に関して、数多くの問題も挙げられている。

第一に教員の業績評価の正当性がある。教官採用は任期制導入の有無に関わらず適切な評価が行われるのが前提だが、それが守られるとは限らない。最悪の場合、自校出身教員の多さから身内意識が先行し、恣意的な評価が下されるという可能性もある。信頼性のある評価システムを確立することが必要とされている。

第二に、期間内にある程度まとまりのある研究成果をあげる事に終始して、長期的な研究がおろそかにされる可能性がある。実際、任期制のあるアメリカの大学では内容の薄い論文ばかり横行する、ということもあるようだ。その為、研究途上の業績も含めた広い範囲の評価を求められている。

第三に、任期を終えて別の大学に異動する場合、その大学に同じ研究設備があるか、という問題もある。

恣意的な運用される懸念も

導入による教育・研究活動の活性化を目指す

アメリカではその為の特別な予算が組まれているが日本では行なわれるか。

第四に、院生や四年生にとっては指導教官が突然任期によって異動してしまったとき、行き先を見失う危険性がある。特に理工系の実験関係の研究室では講座制と呼ばれるいわば年功序列のシステムにならざるを得ない為、指導システムの抜本的改革が必要とされている。

現教員の見解

全国大学高等教職員組合（約三万九千人）と日本私立大学教職員組合連合（約二万人）は任期制の導入に反対の声明を発表している。今後も署名運動などを全国で行い法制化阻止を訴えていくそうだ。

このように必ずしも全面的に歓迎されているわけではない任期制に関して、筑波大学の現教員はどのような考えをもっているのだろうか。

国立大学の教員は私立のそれに比べて月給が三分の一であるらしい。給料も安く、将来の安定感も無くなるとあっては逆に人材が転出してしまうのではないかとの懸念がある。

自然科学系の小池助手は「流動性の向上による研究活動の活性化を目指すなら、同じ大学に留まることを禁止、又は他大学に異動することを奨励するほうがスムーズに機能し、反対も少なくなるのではないか」と述べた。任期制導入に難色を示す教官陣にもある程度の納得は得られるに違いない。また、社会科学系の駒井教授は「良い教官に留まってもらうために、給料差などを設けて落差を付けたほうが良い」と語った。待遇格差による効果のほうは想像の域を超えないが、教員の獲得には一役演じることになるだろう。

また、大学のシステムはとかく保守的になりがちなので、研究を行わず理事・人事にのみ力を注ぐ、いわば「ボス教授」の一つの武器になる危険性を指摘する声もあった。

一方、社会科学系の副田教授は「（社会学に関しては）完全に実力主義の世界。研究論文は学会で正当に評価されている。教員が実力相応の大学に赴任すれば何も問題は起こらない」と語り、任期制という制度の必要性を否定する。また同氏は「自分の研究分野が好きで研究するから良い成果が得られるのであって、クビになりそうだからといって書く論文が良い論文である筈がない」とも語る。内容の薄い論文ばかりや様々な欠陥と胡坐をかく様では教員失格ということか。ただ、教官の評価には研究面だけでなく教育面での評価もあることを忘れてはならないだろう。教員が実力相応の大学に赴任しない限り、任期制の必要性を否定する。また同氏は「自分の研究分野が好きで研究するから良い成果が得られるのであって、クビになりそうだからといって書く論文が良い論文である筈がない」とも語る。内容の薄い論文ばかりや様々な欠陥と胡坐をかく様では教員失格ということか。ただ、教官の評価には研究面だけでなく教育面での評価もあることを忘れてはならないだろう。

任期制のゆくえ

任期制の抱えている数々の問題点は考慮しなければならないが、その目標である実力主義への移行は評価に値する。

しかしそのためには研究・教育の正確な評価が必要だ。特に教育評価については答申書で同僚教官や学生による評価などが挙げられている。

筑波大学では今年の学園祭において「レオナ・プロジェクト」と称して、学生による人気教官の選出が実施された。選出された教官はそれぞれ工夫した授業を行っており、制度化するには問題も残るが、ある程度の信憑性はおけた。評価基準として一考の価値はある。

が研究の活性化につながることは間違いない。だが、あえて任期制に頼らずとも各教官の意識で現状でも自由な異動は可能であろう。

現在の大学事情に一石を投じた大学任期制。導入の判断は各大学に委ねられている。筑波大学の今後の動向に注目していきたい。（小幡）

続・追跡 宿舎犯罪

～警備体制の問題点～

筑波大学の学生宿舎で、今年始めから十月までに報告されている犯罪件数は百二件。しかし、報告されていないものも多く、宿舎における犯罪はそこに住む学生にとって、他人事とは言えない。先月号で、宿舎犯罪を取り上げ、防犯に関するアンケートを行った。その中で、「宿舎の警備員」についての意見が多く聞かれた。今回はこの警備員の存在という点から宿舎犯罪について考えてみたい。（長谷部）

現在宿舎の警備は大学内全体の巡回警備の一部として行われている。巡回警備の体制は今から二年前の一九九四年から実施。それ以前は警備員の各宿舎への常駐という体制で行われていた。

この警備体制の変更は、九四年に大学構内の交通の取り締まりを行う「交通パトロール」が導入されたことによる。これをきっかけに、学内にパトロール車が取り入れられることとなり、これを活用しようと考えられたのが、巡回警備の体制である。

巡回警備を管理する筑波大学管財課は、「パトロール車の機動力を考慮し、効率よく警備ができるように巡回警備の体制を取り入れた」とその理由を語る。

＊　＊

九四年の巡回警備の導入により宿舎の常駐警備は廃止された。しかし同じように巡回警備されている大学校舎には、現在も常駐の警備員が存在する。学生の生活の場であり犯罪の発生する可能性のある宿舎にも、大学校舎と同様の常駐の警備員が必要ではないだろうか。この点に関して管財課は「警備員は通報があればすぐに駆けつける。盗難などの人的災害はどこで起こるかわからない。広い宿舎内で、そのような犯罪に対処するには、機動力のある巡回警備のほうが効率的に対処できる」とコメントする。

しかし、学生の多くは通報する先である巡回警備員の存在を知らないのが現状である。十月に平砂宿舎で発生した放火事件の際も、宿舎生がまず通報したのは宿舎管理事務室であり、そこから巡回警備員に通報がなされた。現在のような体制では、警備員への通報の時差により、重大な事件に発展する可能性もある。

これに関して大学側は、「防犯の都合上、どのような警備を行っているのか、あまりは大きく宣伝はできない」と言う。しかし、被警備者である学生への情報の不足は、大学側の最大の怠慢であり、宿舎防犯の軽視と言わざるをえない。

＊　＊

管財課の職員は「宿舎は出入りも自由。一般のアパートに近い」と意見を述べる。つまり大学側にとって「宿舎」とは「住む場所」を提供しているに過ぎず、この認識が宿舎防犯を甘くしている要因だろう。

一方、当の学生はどうだろうか。小紙が行ったアンケート中、宿舎常駐の警備員を求める声が多く聞かれた。これらの声には「大学の施設なのだから大学が生活の安全を守ってほしい」という気持ちが表れている。「自分の身は自分で守れ」という大学と「大学に守ってほしい」学生。この二者の考え方の違いが宿舎防犯の最大の問題ではないだろうか。

ひとのめ24　～高跳び～

Catch JOYPACK ○ 県内唯一

地方ディスコの素顔

つくばで楽しめる娯楽は少ない。カラオケ、ボーリング、カラオケ…。何か忘れていないだろうか。そう、ディスコだ。ここつくばには県内唯一のディスコ「JOY PACK」が存在する。とはいっても、学生にはあまり身近な娯楽とはなっていないのが現実。JOY PACKとはどんなところなのだろうか。その素顔をキャッチした。（宮地）

つくばの中心部、つくばセンター。そこからほど近いところに「JOY PACK」はある。外壁にはダイナミックな絵が描かれており、周囲の建物に異彩を放っている。しかし、外から中の様子を窺い知ることはできない。

JOY PACKができたのは十五年前。当初は映画が見られるレストランだったが、時代の流れで現在のスタイルになった。昨日によってジャンルが異なるため、客層も日によって様々だという。

店内に一歩足を踏み入れると、ボリューム全開の「音」の洗礼を受け、一瞬耳が麻痺するような感覚に襲われる。店内では、隣の人との会話もままならない。そこは音楽が支配する世界。

流行は無視——「ぶっちゃけてるのがイイ!!」

奥のダンスフロアーでは、若者がその音に体をのせて踊っている。お立ち台もある。いくつものライトが激しく動く。音を媒介に、不特定多数の人によって一つの空間が作り上げられているイメージ。

年齢層は二十～二十五歳がメイン。ファッションは人それぞれで、もちろん派手な衣装をまとっている人もいる。「ここに来るときは、JOY PACKモードに切り換えるの」と話してくれたのは、水海道から来ていたフリーターの常連さん。普段とは、お化粧の仕方や服装が全然違うそうだ。その一方で、セーターにジーンズといったカジュアルなスタイルの人もいたりする。「ディスコ＝超ド派手」という方程式はここでは成り立たない。

また、時折　常連客とスタッフが友達のように会話している姿も見受けられる。「ぶっちゃけてるところが

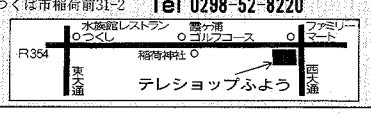
「学生全日入場無料」の企画もその一環。今年二月から実施され、それ以来、確実に学生客は増えているという。フロントで学生証を提示すればOK。もちろん店内での飲食は別料金だが、タダでダンスが楽しめることに代わりはない。

しかし、増えたといっても、全体に対する学生客の割合はせいぜい一、二割程度。筑波大生に限るとその割合はさらに低くなる。車で二〇分かけてボーリングには行っても近くのディスコには行かない。ディスコに対する一般的な先入観が壁を作ってしまい、「ディスコに行く」筑波大生を、マイノリティーにしてしまっているのかもしれない。

マジョリティーの声を聞いてみると、「（行く）きっかけがない」、「何となく入りづらい」というものが多い。学園祭の野外ディスコの盛り上がりようを見る限りでは、ディスコが筑波大生の娯楽となりえるベースはあると思えるのだが「きっかけがない」、というべき堂々巡りが起きている。

十二時間の開店間際、盛り上がりは最高潮に達する。同じ空間で同じ曲にのって踊るという共有の意識もあるだろう。知らない人にも妙な連帯感を覚えたのが印象深い。

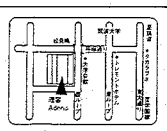
NTT DoCoMo "ムーバでいい冬"キャンペーン
プリペイドカードプレゼントセール 12/6 ～ 12/29
12月より新規加入料無料

テレショップふよう稲荷前店
つくば市稲荷前31-2　Tel 0298-52-8220


NTT Personal PHSモニター募集
PALDIO 101U・102Uを20名様にプレゼント！

コンパはおまかせ！　酒・たばこ・米
みやもと
天久保２丁目（味の民芸裏）
TEL 52－1960

春日歯科医院
〔診療時間〕AM9:00～PM1:00，PM2:30～PM7:00
（但し，火・土曜日はPM6:00まで）
〔休診日〕日・木曜日，祝祭日
つくば市東平塚（大学病院北側）TEL 51－1333

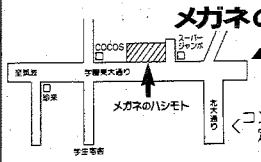
Salon de Adonis アドニス
〒305 つくば市天久保3-4-8
柴崎ビル１Ｆ
TEL 0298-58-3653
受付時間 9:00～19:00（パーマ18:00まで）増毛コース有
定休日 毎週火曜日 第2、第3月火連休


BRIDGESTONE
常磐高速24時間緊急サービス工場
塚田タイヤセンター株式会社
つくば市春日４丁目１７－１８
TEL 0298-51-4144　FAX 0298-51-4146

定期講読者の皆様へ
引っ越しの際はお電話を
52-4460 筑波學生新聞

どこよりも
生テープが安い
営業時間 12:00～22:00
東京テープ卸売センター ☎55-2432

「くらす」ということ。
毎日食べるものだから安全性を考えたものを食べたい
いつも着ている服だから環境の影響を考えた洗い方をしたい
時には考えるものだからこそこだわりをもって選びたい
筑波学生職員生活協同組合
〒305 つくば市天久保2-9-2リッチモンド２番街203
tel：0298-55-9331　fax：0298-52-0201
冬・春の免許受付中

メガネのハシモト つくば店


〈コンタクト定検〉土 PM4:00～6:00　月・木PM2:30～4:30

引越し、レジャーにレンタカーを—
〈株〉トヨタレンタリース茨城
—筑波学園営業所—
営業時間8:00～19:00　☎51－0100

友 and 遊 甚八 居酒屋
忘年会・新年会承ります
〈甚八 筑波学園店〉
Tel 55-6744
PM6:00より営業

CREATIVE HOUSE AKUAKU 1979-1999
COFFEE お食事 お酒 JAZZ, ART ……
つくば市天久保2-6-1
TEL0298-51-4147
〔pm0:00～am2:00〕
営業時間が変わりました。

—一流メーカー家電品を安く安く大奉仕中—
●カラーテレビ ●ビデオ ●ステレオ ●パソコン ●ワープロ ●ファクシミリ
●電子手帳 ●冷蔵庫 ●洗濯機 ●携帯電話 ●クリーナー ●電子レンジ
●電気炊飯ジャー ●エアコン ●ビデオソフト ●輸入・国内CD ●ゲームソフト ●Ｊリーググッズ

お客様第一・良心経営
石丸電気 つくば店
茨城県つくば市東新井３１－１３
電話 0298－51－１４００（代表）
営業時間 午前10時～午後７時半
金曜・土曜は午後8時まで
茨城県最大のソフト売場
～国内CD・輸入CD・LD・ビデオソフト・ゲームソフト～